

甲斐市立敷島北小学校 自己評価書

令和7年1月17日（金）作成

校長 増坪 広夫

記述者 職名 教頭 古屋 岳治

学校教育目標 「ともに学び ともに生きる 心豊かな子どもの育成」
・知育 … よく学び よく考える子ども（かしこい子）
・徳育 … 思いやりのある子ども（やさしい子）
・体育 … 健康でたくましい子ども（げんきな子）

学校経営方針 **基本：教師個々の資質・能力の向上と連帯と信頼による組織力の発揮**

- 1 全職員が常に学校目標を意識するとともに、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」を念頭に置き、その具現化に向けた教育実践に取り組む。
- 2 明確なビジョンを持ち、目標に向かって確実な取り組みを展開する。
- 3 P D C Aサイクルを生かし、課題を明らかにして大胆な工夫や改善をしながら、より質の高い教育活動を構築する。
- 4 意欲的に研修・研究に取り組み、専門職としての資質能力の向上に努める。
⇒常に学び続け、向上心を持つ教師でありたい。
- 5 特色ある学校づくり、信頼される学校づくりの実践に努める。

1 全体評価

- ・学校経営方針に基づく教育目標の実現に向けて、一人一人の教職員が各分掌や役割から具体的な取り組みについて提案し、職務を遂行してきたことにより、本校の自己評価・児童及び保護者アンケートの結果は概ね良好な水準にあるといえる。また、それぞれの学年経営方針に基づいた学年目標が設定され、その実現に向けて学年・学級経営が行われていると考えられる。
- ・学習指導については、全体的に肯定的な評価が多く、個々の児童の様子を把握しながら個に応じた授業が行われ、確かな学力の定着が図られている。また、協働的な学びや対話的な学びを意識的に取り入れるなど、児童の学びに向かう力を育てる I C T を効果的に活用した授業改善が進んでいる。
- ・児童と積極的なコミュニケーションをとり、いじめや不登校等の生徒指導上の問題や規範意識を育む指導に職員が積極的に取り組んでいる。一方、多様化する生徒指導上の教育課題解決に向けて、今まで以上に協働した取り組みを推進するとともに、保護者や地域住民と連携した取り組みを充実させる必要がある。
- ・学習活動や安全確保において、地域人材や保護者、施設や団体との連携した取り組みが数多く行われ、教育の充実や安全確保が図られていることが、自己評価・児童及び保護者アンケートの結果での高い評価につながっている。
- ・児童が達成感を感じたり、基礎基本の定着や体を動かすよさを感じたりすることを目指した業前の「北小タイム」が継続的に行われたことより、自己評価、保護者アンケートとも関連項目が高い評価になっている。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標や学校経営について、自己評価全項目で肯定的な意見がほぼ100%となり、引き続き一人一人の職員が高い意識をもって学校運営に参画していることが分かる。これは校長の学校経営方針の下、教職員が共通認識をもって学校教育目標達成に向けた教育活動が行われ、一定の成果を得ているあらわれであると考えられる。 ・教育活動計画に基づき意義や目的を明確にして学習活動や教育活動の実施にあたるなど、より質の高い教育活動を作っていこうという意識が教職員の中に浸透してきていることが分かる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・諸行事の反省や職員会議等での議論を通して諸行事、諸活動が、より学校の実態や体制に即した教育活動になるよう教職員全員で組織的・協働的に取り組みを推進していく。 ・カリキュラムマネジメントの重要性を全職員で確認し、行事や活動の振り返りが、確実に次の教育活動に生かされるようにする。
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に肯定的な評価が多く、日頃から「報告、連絡、相談、確認」を行いながら、諸課題の解決に向けて他の教職員と連携して、主体的に学校運営に関わっている教職員が多いことが分かる。また、業務の効率化を図ったり、校務支援システムの効果的な活用を進めたりすることによる働き方の改善への意識も職員に定着してきている。 ・保護者アンケートでは、教職員が地域、保護者と連携した教育活動の推進を心がけていることや日頃から保護者への連絡を迅速に行っていることに加え、お便りやホームページなどで児童の様子を発信していることにより、児童の様子が地域や保護者に伝わっていることが分かる。学校運営に関する項目では、「学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる」が93%、「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けている」が79%、「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている」が94%と肯定的な意見が高い水準を維持している。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・常に自然災害や学校事故に即した「危機管理マニュアル」に更新するとともに、教職員や児童への周知や訓練を強化し、日々の学校生活や災害・事故発生時に迅速に適切な対応がとれる力を育てていく。 ・PDCAサイクルによる各分掌や業務内容の見直しを行い、学校の実態に即した効果的な教育活動を創造することを通して、より教職員の意欲向上と協働性を高め、働き方改善を推進する。
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に肯定的な評価が多く、児童の学びへの意欲を喚起し、確かな学力の定着を図ろうと、教職員が高い意識をもって積極的に取り組んでいることがうかがえる。 ・児童アンケートでは、肯定的な意見として「先生はよく勉強を教えてくれる」が96%、「国語の授業が分かる」が93%、「外国語の授業が好き」が80%と高く、児童の基礎基本の定着が図られていることが分かる。また、保護者アンケートにおいても、「学校は熱心に授業に取り組んでいる」の肯定意見が86%と高く、教職員の頑張りが児童の様子やお便り、授業参観などの学校行事を通して保護者に伝わっていることが分かる。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修や日々の職務時間での協働的な学び合いの時間を確保し、児童の実態に即した授業を教職員が自信をもって行える環境づくりを更に進めていく。 ・個別最適な学びを進めていくため、ICTを使う授業から児童が主体となって授業を進めるためにICTをどう効果的に使うかという視点で研究を進め、新しい教育スタイルへと教職員の意識の転換を図っていく。
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「お子さんにとって、学校は楽しいところである」の肯定意見が93%と学校の様々な取り組みが児童を通して保護者に伝わっていることが分かる。 ・自己評価の「児童の規範をはぐくむ指導に取り組んでいる」が81%、「日頃から家庭と連携が図れるように努めている」が84%とA評価が高く、教職員が家庭への連絡や訪問を行うなど、家庭と連携して児童に適切な対応をしようという姿勢がうかがえる。また、これらの日頃の連携が生かされ、スクールカウンセラーの効果的な活用や地域・外部機関との連携による不登校傾向にある児童への適切な対応が行われ、改善や改善傾向が見られるなど一定の効果をあげている。 ・日頃から休み時間、校庭や教室で児童と楽しく遊んだり話をしたりする教職員の姿や児童と一緒に掃除をする教職員の姿が多く見られ、十分な児童とのコミュニケーションを土台とした児童理解をもとに生徒指導が行われていることが分かる。アンケートでも「児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている」のA評価が81%と高い水準にある。一方、保護者アンケート「学校は、子どもの間違っただ行動に対して、指導している」の肯定意見が70%、「お子さんのことで、相談できる先生がいる」が71%、児童アンケート「困ったことがあったら相談できる先生がいる」が76%と高い水準にはあるが、昨年度より肯定意見が減少していることから、生徒指導上の教育課題の解決に向けて教職員の指導力向上と保護者との連携充実を更に図っていく必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子育て支援課など外部機関と積極的に連携し、だれひとり取り残さず全校児童が楽しい学校生活を送れるように、きめ細かな支援を継続して行っていく。 ・児童の様子や保護者の願いを適切に把握し、教職員が協働してそれぞれの児童や学級の状況に合わせた保護者と連携した指導の充実を図る。
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度からコミュニティースクールがスタートし、敷島北小学校でも校外学習に加え、1年の「敷島保育園との交流会」「昔の遊び集会」「焼き芋」、2年の「野菜づくり」「地域探検」、3年の「自転車教室」「豆腐作り」、4年の「福祉講話と体験」「認知症サポート講習」「昇仙峡学習」、5年の「米づくり」、6年の「人権教室」「狂言体験」など、地域の外部人材や保護者応援団を活用した学びの機会を数多く実施してきた。また、児童の登下校の安全を守るために、地域見守り隊や帰り道ふれあい事業に関わる地域の方や保護者に御協力いただいている。そのことが、全ての項目における肯定的な意見100%や「学校は、地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保に努めている」のA評価82%に表れている。 ・保護者アンケート「PTA活動に参加している」の肯定意見が86%と高く、学校の教育活動が保護者の協力のもと行われていることが分かる。運動会では、太鼓クラブ児童の太鼓に合わせた盆踊りが行われ、多くの保護者や地域住民の参加を得てみんなで盛り上がる事ができた。 ・敷島北小学校では、情報主任を中心に教職員が分担して校外学習だけでなく日常の教

	<p>育活動における児童の様子を日々ホームページやお便りで発信し、保護者や地域の方々に学校の教育活動の様子が伝わるように心がけてきた。そのことが、「学校は、学校の教育活動について、お便りやホームページを通して保護者や地域に広報している」のA評価の87%という高い評価に結びついている。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教育活動での連携の在り方を振り返り、より児童の学習活動や安全確保が充実するように保護者や地域との連携の在り方を継続的に見直しながら実施していく。 ・学校評価をもとに、学校運営協議会で出された意見を学校運営の改善に生かしていく。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が活躍し達成感を感じることができる学校行事の実現や教育活動の充実に向けて全職員が協働して取り組んできたことが、「学校や児童会の行事に、児童が進んで取り組むよう指導している」の肯定意見100%の結果に表れている。また、保護者アンケートにおいても「学校は学校行事や児童会行事に力を入れて取り組んでいると思う」の肯定意見が88%と高水準となっている。これらのことから、本校の学校行事への取り組みが保護者に伝わり評価されていることが分かる。 ・業前タイムでは「読書」「国語の学習タイム」「北小タイム」などが年間を通して計画的に行われ、縦割り班活動による異年齢での交流や読書活動の推進などに取り組んだ。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの友達と関わりながら達成感や充足感を感じ、学校生活が楽しいと感じられる児童会活動や学校行事づくりを推進していく。 ・毎日の業前タイムを通して、体を動かすことや読書に親しむことの楽しさを感じ、読書や運動の習慣化、学力の基礎基本の習得につなげられるようにしていく。
VII 創甲斐教育について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館司書・図書主任と担任が連携して、年間を通した図書館の積極的な活用や読書活動の充実、図書委員会の取り組みなど、児童が本に触れ読書の良さを感じられる機会を作ってきた。そのことがアンケート「児童が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている」のA評価82%という高い肯定意見につながっている。読書や業前タイムでの基礎基本の定着を図る国語学習タイムの継続による成果は、児童アンケートで93%の児童が「国語の授業の内容が分かる」と答えていることにも表れている。 ・本校の校歌は「富士山が語りかける」という全国的にも有名な校歌であり、教職員も児童も親しみをもって歌っている。コロナ禍で何年も歌う機会が減っていたが、今年度は集会や学校行事、音楽発表会など多くの機会に校歌を歌う機会を設けてきた。そのことが、自己評価「児童が校歌を歌えるように努めている」の肯定意見が87%、児童アンケート「校歌を大きな声で歌える」の80%に表れている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・たてわり遊びや北小タイムを通して、異年齢と関わりながら様々な運動に出会う機会を持つことで、児童が体を動かすことの楽しさを味わえるようにする。また、外部人材を活用した機会を持つことで、児童の技能と教師の指導力の向上を図り、運動の必要性とよさを感じられるようにする。 ・仲間と一緒に心を一つに校歌や歌を歌うなど、仲間づくりの一つとして音楽を大切に、みんなで歌う機会を大切にしていく。

3 まとめ

〈成 果〉

- ・校長のリーダーシップのもと全職員が学校経営方針、学校教育目標を理解し、その目標の具現化のための協働的な取り組みにより学校運営が適切に行われている。
- ・会議の精選や業務の効率化、校務支援システムの効果的な活用など、職場全体の働き方改善への意識が定着してきている。
- ・発達段階に応じたICTを効果的に活用した授業改善を行うなど、児童の学びへの意欲を喚起する授業づくりに教職員が取り組んでいることが、児童の基礎基本の定着につながっている。また、保護者にも教職員の思いが伝わっている。
- ・各学年の学習や活動において、おやじの会等の地域人材や保護者の協力、外部施設の講師の活用などが積極的に行われ教育効果を上げている。
- ・地域見守り隊や帰り道ふれあい事業など、地域人材の活用と保護者の協力により児童の登下校での安全確保が図られている。
- ・情報主任を中心に校外学習だけでなく日常の教育活動での児童の様子が、日々ホームページやお便りなどを通して発信され、保護者や地域の方々に学校の教育活動が周知されている。
- ・児童が活躍し達成感を感じることができ学校行事の取り組みが教職員の協働のもと保護者と連携して行われ、学校の思いが保護者に伝わるとともに、児童の楽しいという気持ちにつながっている。
- ・教職員が創甲斐教育の趣旨を理解し、異学年による交流や基礎学力定着に向けた取り組みが意欲的に行われている。

〈課 題〉

- ・カリキュラムマネジメントの重要性を全職員が理解し、PDCAサイクルの「C：チェック」と「A：アクション」を適切に行い、教育活動の更なる充実につなげていく。
- ・多様化する災害や学校事故に的確に対処できる力を身につけるため、危機管理マニュアルの職員への周知と訓練の充実を図っていく。
- ・校内研修を中心として指導法やICTの効果的な使用法の研究を充実させ、教職員が常に学び新たな視点を持って指導にあたることを通して、児童が主体となって進める個別最適な授業を推進していく。
- ・児童の状況や保護者の願い等を的確に把握して、教職員の協働的な取り組みを進めるとともに、情報の共有を迅速に行い保護者やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子育て支援課などと連携して生徒指導上の教育課題の解決にあたる。
- ・学校の内外関係なく気持ちのよい挨拶をすることを通して、人間関係づくりのできる児童を育てていく。
- ・仲間と心をつなぐことの意義を全職員が理解して継続した指導を行うことを通して、校歌をはじめとする歌を友達と大きな声で歌える児童を育てていく。
- ・働き方改革推進に向け、PDCAサイクルの効果的な運用による業務のスクラップ&ビルドや優先順位づけ、取捨選択などによるメリハリのある働き方を学校全体で意識し実行していく。